ベラルーシ公開情報取りまとめ

（3 月 23 日～3 月 29 日）

2019 年 4 月 8 日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領がモギリョフ州を訪問し，同州の農業の現状に不満を示し，副首相，農業省，及びモギリョフ州知事らを更迭。（3/25-27）

●3 月 25 日の「意思の日」に際する国内外の動き（3/23-25）

●ベラルーシと日本の税関当局が相互協力に関する文書案に合意（3/28）

●来年秋に「ベラルーシ・北海道フォーラム」の開催で合意（3/29）

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●モギリョフ州訪問。副首相，農業省，同州知事らを更迭（3/25-27）

・25 日，ルカシェンコ大統領は，モギリョフ州で農業開発に責任を有する公職者を厳しく批判。翌 26 日，同州において，農業ホールディング「クパロフスコエ」社の乳牛の飼育状況と製造施設の管理状況の悪さに憤慨し，同社の経営責任者を刑事訴追するよう指示。

・26 日から 27 日にかけて，ルカシェンコ大統領は，ルースィ副首相（農業担当），ザヤツ農業・食料大臣，ドマネフスキー・モギリョフ州執行委員長（州知事相当），及びヴィチュノフ・シュクロフスキー地区執行委員長（区長相当）を解任。

（3/25-27 大統領公式サイトほか）

●クルツ・オーストリア首相のベラルーシ訪問(3/28, 29)

・ホロコースト追悼記念碑の開設式典（3/29）

両首脳は，第二次大戦時のナチスの収容所があったトロステネツにおいて，ホロコーストによる犠牲者の追悼記念碑「氏名の塊」の開設式典に出席。

・首脳会談（3/29）

クルツ首相は半年以内のルカシェンコ大統領による訪墺に期待。ルカシェンコ大統領は，ベラルーシは EU と協力の用意があるが，自国の国益を考慮することを強調。

（3/29 大統領公式サイト，国営ベルタ通信，ベラパン通信ほか）

【内政】

●3 月 25 日の「意思の日」に際する国内外の動き

ドイツの占領下時代の「ベラルーシ人民共和国」成立から101周年となる 25 日の「意思の日」を祝賀する行事が国内外で開催。

・グロドノ州

23 日，当時のベラルーシ人民共和国の独立政府が数か月間移設されていたグロドノ州で数千人が祝賀。当初，祝賀行事はミンスクで予定されていたが，ミンスク市当局が同市内の大規模施設での祝賀行事実施を認めなかったことから，グロドノ州での開催となった。

・ミンスク市

24 日，同市キエフ公園において，主催者発表で数千人規模の祝賀行事が開催された（警察発表では参加者は 1,500 人以下）。同行事が許可された領域から出たとして，反政府活動家のダシュケヴィチ氏や非公認政党「ベラルーシ・キリスト民主主義」の創設委員会共同議長のルィマシェフスキー氏らが拘束された。

25 日，夜に市中心部に出た市民少なくとも 12 人が拘束された。

・ワシントン D.C.

25 日，「ベラルーシ人民共和国最高会議」（亡命政

府）が，「意思の日」を記念し，ベラルーシの民主化と人権擁護に貢献した米国外交官やベラルーシ国外の社会・文化活動家にメダルを授与。同最高会議からの功労者に対する表彰は，70年以上前に行われていたが，今回その慣行が再開された。
（3/23, 24, 26 ベラパン通信）

【外交】

●ベラルーシとオランダの国会議員が「ヘルシンキ 2」の展望ついて議論（ミンスク）

25 日，ベラルーシを初訪問したオランダ議会代表団がベラルーシの国会議員と会合。ヘルシンキ 2 の展望について，ベラルーシ下院のヴォロネツキー国際問題常設委員会委員長は，まずは西側と東側が対立的雰囲気を止めて交渉のテーブルにつくことが先決である旨述べ，プロセス開始の難しさを指摘。
（3/25 国営ベルタ通信）

●クラフチェンコ外務次官：「EU とのパートナーシップの優先事項に関する議論は袋小路に入った。」

28 日，クラフチェンコ次官は合意文書のテキストに関する議論は行き詰っているものの，続けられていると発言。同文書の署名には EU 全加盟国の承認が必要であるため，（原発建設問題でベラルーシと懸案を抱えている）リトアニアの立場が障害となっている。
（3/28 国営ベルタ通信）

●来年秋に「ベラルーシ・北海道フォーラム」の開催で合意

イエシン駐日ベラルーシ大使が北海道に出張した際，高橋はるみ北海道知事との間で同フォーラムの開催に合意。イエシン大使は，ベラルーシ出身のゴシュケーヴィチ初代帝政ロシア駐日領事の胸像の函館への設置に対する協力に謝意を表明。高橋知事は，2018 年の震災後にベラルーシ市民から寄せられた被災道民への支援と 2019 年に道内の児童をベラルーシでの保養に受け入れる可能性に対して謝意を表明。
（3/29 国営ベルタ通信）

経済

【国内経済】

●運輸通信省が欧州復興開発銀行（EBRD）とともに国内 11 か所の道路の橋の改修プロジェクトを実施

アヴラメンコ運輸通信大臣によると，プロジェクトの実施総額は約 1 億 600 万ユーロ。2,3 年かけて，事故が起きかねない状態にある橋の改修を行う。
（3/29 国営ベルタ通信）

【対外経済】

●ベラルーシと日本の税関当局が相互協力に関する文書案に合意（3/28）

同文書は，協力の原則や形式の他，違法行為の発見・調査・防止のための照会や情報交換に際する税関分野の相互協力の手順を定めるもの。文書案の合意を受け，両国で署名のための国内手続きが行われる。
（3/28 ベラパン通信）

●4 月 9 日から 12 日にかけてカザフスタンのアルマティで「メイド・イン・ベラルーシ」展が開催

同展覧会では 50 社以上のベラルーシ企業が 300 以上の製品を展示予定。

【治安・軍事】

●ベラルーシ軍とロシア軍によるポーランド上空偵察飛行を計画，及びスロバキア軍とポーランド軍によるベラルーシとロシアの上空偵察飛行を計画。

25 日から 29 日にかけて，ベラルーシ及びロシア軍から成るミッションが，ロシア軍の偵察機 An30B による偵察飛行の実施を計画。目的は，偵察対象国家の領域における軍事行動の制御。同様の目的で，スロバキア軍とポーランド軍は同時期にウクライナ製偵察機 An30B によるベラルーシとロシアの上空飛行を計画。
（3/25 国営ベルタ通信，ベラパン通信）

（了）